



鳥 総

伊東 文弘
(愛知)

鳥総は切株に梢を立て、山の神を祀る神事
根づきたる鳥総を見つつ山の神祀るに篤き杣らを偲ぶ

運命と杣は言ふなり鳥総して根づく根づかざるものありき

鳥総して根づかぬ杉穂は痛ましくしばらく残る敗者のごとく

少年のわが植多し木に宿りゐん山の女神は杉の香のする

縁結び縁切り榎の巨樹あればひそかに立願する者ありしと

太郎より十郎までの名前つけ日光杉並木を育てたる村

白装束の群が御柱を曳きてゆく風土記の神話のごとく華やぐ

祭とは激しきものぞ山出しの丸大にのりて急坂下り来

同じ手が御柱の綱を握りをり伊勢神宮に諏訪の大社に

神人^{かみ}として御柱にのり来し男らは地上で平凡な若者となる

正月に門松を祭に竹を立てけふ御柱を立てんとぞする

青空を刺すごとと聳ゆる御柱^{はしら}立て人は足りしや酒に酔ひゆく

あと何人ふるさとびとを葬るやたまよびのこゑ聞きつつ思ふ

平成は杣になる者なきと言ふを木霊祭を終へて聞きをり

老ふたり鳴らせる鼓笛に山人ら狂へるごとく花祭を舞ふ

このころの私

コロナで、会合が全くできなくなつた。雨天続きで農業を縮小し、膝痛のリハビリに専念した。趣味の民俗学のレポートを、書くこともできた。秋には、再び農業をしようと思ふ。



海へ

福士 りか
(青森)

このごろの私
もともと料理は好きだが、
最近肉料理にハマっている。
お薦めは豚ヒレ肉の塊をペー
コンで巻いてオープンで焼い
たもの。しつとりとして食べ
応えがある。花嫁修業も師範
の域となりにけるかも。

道祖神の招きにあひて燃ゆるごとく日の没るといふ海へと向かふ

録音のねふた囃子を聞きながらリゾート列車「しらかみ」を待つ

語り部も三味線奏者も乗り込まずイベント車両を満たす朝影

弘前に「シロサギ」のルビ 方言詩人一戸謙三の胸の「シロサギ」

弘前のつぎ撫牛子なひうしつぎ川部かはべ 乗る人もなく降りる人もなし

北国にアイヌ由来の名の多しまつろはぬ民ここにありしと

早生りわせりんごの名は〈夏みどり〉どこまでも続く畑の句点、読点

若き日に似合はぬもののひとつならむ旅窓にかざす銀のスキットル*
*金属製の携帯用小型酒入

トンネルを抜けて千畳敷の駅 片側は崖、片側は波

十五分海辺の駅に停車せりマスクはづして吸ふ海のかぜ

内海のごとくしづけき日本海ひとり風合瀬かそせの駅に降り立つ

「不老ふ死温泉」の「ふ」を眺めをり打ち消しがたきか死といふものは

艦作へなしなる磯に露天の湯のありて波と風とが音を紡げり

海ぎはの露天湯まへを一艘の釣り舟が過ぐ慌て風情で

深浦ふかうらは風待ち湊 海風に髪をなびかせ今は漕ぎ出でな